

博多区内科医会だより

押領司行人

1)定例講演会報告

平成 23 年9月例会

9月 13 日(火)(アクア博多:グラナダスイート)

特別講演「脳卒中診療のコツ」

九州大学病院 腎・高血圧・脳血管内科
助教 吾郷哲郎先生

心原性脳梗塞は高齢者の心房細動患者に多い。ワーファリン投与すべき患者が多い。脳出血を起こさないよう適正な使用が求められる。(PT-INRを使う)ダビガトランと言う新薬もある。アテローム血栓性脳梗塞は抗血小板薬を使う。アスピリン不応性、プラビックス不応性はそれぞれ30%ある。ラクナ梗塞(穿通枝動脈)も同じ。顔面麻痺、上肢麻痺、言語障害の1つでもあれば7割以上の確率で脳卒中。

平成 23 年 10 月例会

10月 11 日(火)(アクア博多:グラナダスイート)

特別講演「喘息と COPD の最近の知見」

福岡大学病院 呼吸器内科学教室
准教授 藤田昌樹先生

COPD は完全には可逆的でない気流制限一有害粒子による炎症反応一で、予防と治療が可能である。肺気腫型、慢性気管支炎型があり、スパイロメトリーで診断できる。%1 秒量<30%が最重症。治療は禁煙、インフルエンザワクチン、気管支拡張剤(アドエア、スピリーバ)、酸素療法、外科療法がある。気管支喘息は炎症と狭窄が可逆的で、アドエアなどを続けると肺機能は改善する。COPD+喘息は、(アドエアから始めて)診断的治療をする。

平成 23 年 11 月例会

11月 8 日(火)(アクア博多:グラナダスイート)

講演「知っておきたいカプセル内視鏡の最前線」

～NSAIDS における胃・小腸潰瘍の現状と将来～

大阪医科大学 第二内科
教授 樋口和秀先生

NSAIDS 起因性胃潰瘍治療は PG 製剤及び PPI を使う。PPI で感染症、骨折、心筋梗塞の増加する可能性がある。ピロリ菌除菌後にはレバミピドは PPI と同等の効果がある。カプセル内視鏡は新しい小腸検査ツールで、原因不明の消化管出血と言う病名で保険適応がある。低用量アスピリンも安全でなく、胃も小腸も潰瘍を起こす。PPI で小腸を守れないからムコスタを併用するのがよい。

2)研究会御案内(自由参加、5 単位)

消化器懇話会(博多シティセンター)

第 1 月曜 19:00～ 古賀安彦先生(古賀胃腸科医院)

循環器懇話会(博多シティセンター)

第 4 月曜日 19:00～ 林靖生先生(原三信病院)
丸山徹先生(九州大学健康科学センター)

呼吸器懇話会(博多シティセンター)

4 回/年(2、5、8、11 月) 19:00～
竹田圭介先生(竹田内科医院)